

2016 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	外国語 科 目
-----------	--------------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

アンケート実施率、回答率が、いずれも 2016 年度春学期と比較すれば下回る結果となった。

設問別評定平均値では、「知的好奇心」（4.00）が全学平均値（4.13）を 0.13 下回っていることを除き、他の 8 項目において全学平均値との差異が 0.05 以内の範囲に留まっている。評定平均値に限って言えば、この科目区分の結果は本学で提供する全科目の結果にきわめて近い。

全項目で一定水準の成果がうかがえる中でとくに気掛かりな点を挙げるとすれば、「授業時間外学習時間」（0.61h/w）であろう。学生自身による授業外の学習が望ましいことはいずれの科目区分でも同様ではあるが、外国語習得という作業はその特性上、成果を上げるためには、授業中における知識や技能の習得にもまして自己学習の重要性が大きいという点からは、物足りない結果である。必修または選択必修の科目が多いことから、全履修者に同水準の学習意欲を期待することは困難であることは否めない。しかし逆に、全学部において必修または選択必修として位置付け、少なからぬクラス数を設置している以上、この科目区分においてはより高い結果が望まれるところである。

DWCLA10 の科目区分選択率で、「コミュニケーション力」の選択率（37.6%）が全学平均値（20.5）を遥かに上回っていることは、この科目区分に期待されている重要な部分において成果を上げていると言える。この結果は、同項目における国際教養学科科目（34.8%）や英語英文学科科目（25.1%）の数値が、必ずしもコミュニケーション力の向上を主たる目的としない科目の結果も含むことを考えると、これらとの差がより大きくてもよいと言えなくもない。しかし、外国語科目区分における科目がこれらの学科における英語スキルの科目よりも大きなクラスサイズで実施されていることをふまえて総合的に見れば、妥当な結果と考えられる。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育開発支援センター